

2005. 9. 9.

流域委員会
委員長 松本 誠 様

委員 法西 浩

提案書

平素は委員会の運営にご尽力いただき感謝します。9月5日の委員会は、所用のために欠席しました。この委員会で提出されました伊藤委員の資料を検討します。

2004. 10. 18. の実績24時間雨量 175.5mm
計画降雨量 (1/100確率) 247mm
引伸ばし率 $247 \div 175.5 = 1.41$
 $2900 \text{m}^3/\text{s} \times 1.41 = 4090 \text{m}^3/\text{s}$ となる
図では $4883 \text{m}^3/\text{s}$ (1/100確率) となる
 $4883 - 4090 = 793 \text{m}^3/\text{s}$ となる

また、S 58. 9. 16. の実績降雨は、206.4mm
ピーク流量は $2600 \text{m}^3/\text{s}$ と発表されている
引伸ばし率 $247 \div 206.4 = 1.20$
 $2600 \times 1.20 = 3120 \text{m}^3/\text{s}$ となる
表 1 のピーク流量 $3578 \text{m}^3/\text{s}$
表 2 のピーク流量 $3561 \text{m}^3/\text{s}$
 $3561 - 3120 = 441 \text{m}^3/\text{s}$ となる

今まで、実測流量について検討されなかったもので、ここで提示した。以上の計算が妥当だったのか。まちがっているとするれば、どこがどのようにまちがっているのだろうか。水文学の有識者のコメントをお願いします。

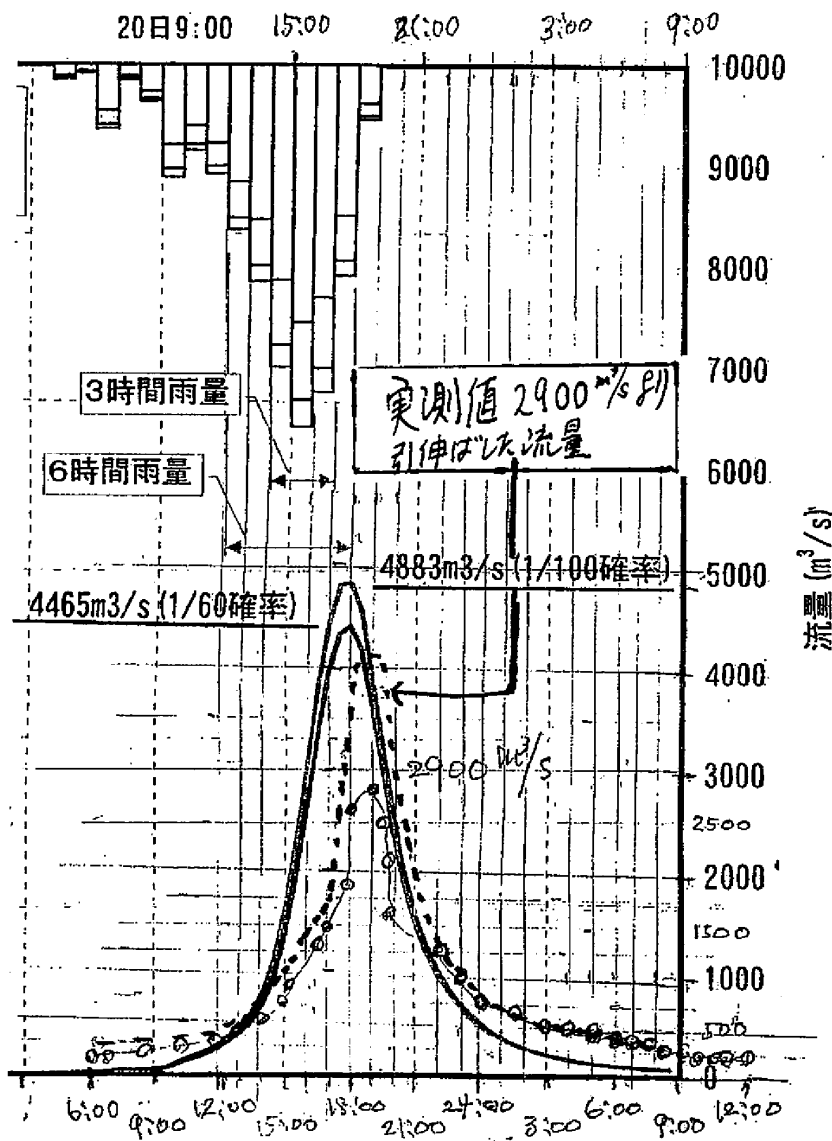
ピーク流量 $4090 \text{m}^3/\text{s}$ も、 $3120 \text{m}^3/\text{s}$ も安全でない。なぜならば、この流量が長時間流れたとするならば、堤防は崩壊するだろう。このことは昨年23号台風が教えている。基本高水の議論はもう終りにして、整備計画へと急ぐべきである。

棄却基準の検討

- ・設定 2 表 2 が設定 1 表 1 と同じ土俵で論議するには棄却基準が重要になる。

- 表1と同じ引伸ばし倍率を2.0以下にする。
- 1/400確率を1/200以下にする。1/200確率は畑委員の提案であるが、委員会ではそれに反対する委員は畑委員により、論破されたと認識している。
- ピーク流量は最大値は4000 m^3/s 未満とする。

ある委員の中には、3500~4000 m^3/s と、4500~5000 m^3/s を並べて提示すべきだ、との意見が聞えてきたが、これはあくまで、サイエンスであるので、論理的でない数値は採用すべきではない



'05.9.5.の流域
委員会で伊藤委員
が提出された資料
の中の図。

H.16.10.18.の降雨
のハイドログラフ
ピーク流量2900 m^3/s
は実測値。